



【今号の1枚】

カンボジアで実施中の「分娩時及び新生児期を中心とした母子継続ケア改善プロジェクト」では、プロジェクトの活動を支援するサラヤ社からベビーソープが寄贈されました。ベビーソープは継続ケア（産前健診・施設分娩・産後健診）を受けた母親に配布され、沐浴など赤ちゃんの清潔保持や手洗いの励行を呼びかけました。

同国では、乳児死亡の5割以上が生後28日までの新生児期に起こっており、新生児死亡削減は喫緊の課題となっています。分娩時及び新生児期を中心とした継続ケアが強化されることを目標とし、早期必須新生児ケア、病児や低体重児・早期産児に必要な集中的ケアの強化などの活動に取り組んでいきます。

引き続き、皆様からの手洗い啓発活動の写真を大募集いたします！

(写真提供：人間開発部)

< 手洗い運動事務局より >

健康と命のための手洗い運動を開始して半年が経過しました。新年度にもなりましたので、手洗い運動のインパクトをより広げていきましょう！活動において以下のような工夫を考えてみてはいかがでしょうか？

-  より多くの人々にメッセージを届ける。
-  様々なルートから反復してメッセージが届くようにする。
-  行動変容につながるような工夫を取り入れる。
-  学校のカリキュラムや教科書に入れ込むなど、反復するような仕掛けをする。
-  相手国政府の政策、計画、予算などに位置付けるように働きかける。
-  相手国政府の上層部を巻き込む。政府レベルで手洗いへの取り組みが続くよう働きかける。



マダガスカル 地域の「みんな」が支える給食と手洗い

国の財政状況が厳しいマダガスカルでは、学校の様々な課題を、時に学校自身で解決する必要があります。そのため、JICAは「みんなの学校プロジェクト」を通じて、保護者・教員・地域住民の「みんな」で構成される学校運営委員会の活性化を支援しています。

この結果、委員会が「みんな」の協力のもと、地域のリソース（ヒト・モノ・カネ）を動員し、机・イス・文房具・教科書の購入や、算数・読み書きの補習授業など、教育改善の取組みを活発に実施するようになりました。

さらに、給食が安定的に提供されていないマダガスカルの状況を踏まえ、「子どもたちに給食を提供しよう！」という目的を掲げ、地域で調達できる米、水、野菜などの食材や調理・配膳スタッフなどを動員した給食提供と給食前の手洗い活動を実施する学校が増えてきました。実際に、2019年には59校の約8,850人の子どもたちへの給食提供と給食前の手洗い活動が行われ、2021年3月現在、この取り組みは146校の約21,900人の子どもたちまで広がっています。

今後も「みんなの学校プロジェクト」を通じて、教育のみならず栄養・保健衛生など、子どもたちを取り巻くマルチセクショナルな課題を「みんな」で解決していく基盤作りに協力していきます！



子どもたちを取り巻く課題とその解決策について
考え、話し合う「みんな」



調理や配膳を手伝う保護者・地域住民



給食前に手を洗う子どもたち



給食を前に笑顔の子どもたち

(人間開発部基礎教育グループ 黒川誠一、国際協力専門員 國枝信宏)



タジキスタン 安全な水の供給と正しい手洗い習慣

タジキスタンの地方都市で給水サービスを行う上下水道公社を対象として、給水施設の運転・維持管理や経営能力の強化を目的とする技術協力プロジェクト「ピアンジ県・ハマドニ県上下水道公社給水事業運営能力強化プロジェクト」を実施しています。本プロジェクトは、COVID-19のパンデミックに対しても素早い行動を取り、同国政府の要請に応え、水道用消毒剤 300 トンの調達と全国の上下水道公社への配送管理を支援しました。

本プロジェクトの対象サイトの一つであるピアンジ県では、ピアンジ県上下水道公社が、我が国の無償資金協力事業で建設された給水施設（2016年竣工）の運転管理を行っており、約3万人の住民に安全な水を供給しています。同公社は、COVID-19を含めた感染症予防のためには、安全な水の供給に加え、正しい手洗い習慣を身につけることが重要であるという「健康と命のための手洗い運動」に共感し、県下の4つの小学校で同運動を実施することを決定しました。

同公社は、これまでも、顧客との関係強化の一環として、本プロジェクトの本邦研修で学んだ「巡回教室」を取り入れ、小学生を対象に水道の水が各家庭まで届く仕組みについての授業や給水施設の見学会などを開催しています。同公社は、このような活動を通じて県下の小学校とは既に関係を構築していますが、手洗い運動の実施に当たっては、県庁、町村議会、教育委員会などの行政機関、県病院及び看護学校などの医療機関を幅広く巻き込み、各組織が一致協力して実施することになりました。

手洗い運動は、4つの小学校を対象に2021年3月16日から19日までの4日間で実施され、延べ1,700人の児童と先生及び関係者を含めて約2,000人が同運動に参加しました。子供たちへは、正しい手洗いの方法を分かりやすいイラストにしたタジク語のパンフレットを使用して説明し、石鹸も1つずつ配布しました。また、実際の手洗いの指導は、看護学校の生徒さんに担当してもらいました。

手洗い運動の開催後、ピアンジ県知事及び同県教育委員会からはJICAに対して心からの謝意が表明されるとともに、手洗い運動の継続とさらに高学年、高校生を対象に同運動を行って欲しいとの要望がありました。今回の手洗い運動の様子は、国営TV局の取材を受け、ゴールデンタイムに全国ネットのニュース番組の中で数日に亘って放映されました。今後、この手洗い運動が全国の他の上下水道公社を通じて、全国に広がって行くことが期待されます。

■ YouTube プロジェクト紹介 : <https://youtu.be/GOy7yK4jLAU>

手洗い運動の様子 : <https://youtu.be/edGeXrECZ7Q>

(タジキスタン ピアンジ県・ハマドニ県上下水道公社給水事業運営能力強化プロジェクト 松田和美)



タジク語に翻訳したパンフレットは分かりやすく子供たちに好評でした。



看護学校の生徒さんが手洗いの指導を行いました。石鹸・タジク語に翻訳した正しい手洗い漫画を子供たちに配布しました。



手洗い運動に参加した子供たち。4つの小学校で延べ1,700人の児童が参加しました。



ウォーターエイドジャパンさん主催ウェビナー 「健康と栄養のための手洗い」へ参加しました！

2021年3月30日に特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパンさんが主催したウェビナー「健康と栄養のための手洗い」に参加しました。



ウェビナー登壇者（写真：WaterAid Japan さん提供）

同ウェビナーは、栄養や水・衛生分野のスピーカーが、大規模かつ長期的に人々の衛生行動を変え、栄養を改善し、将来の健康危機に備える方法について議論し、また、栄養と水・衛生分野の連携における課題と機会について話し合い、今後の更なる連携について考えるために開催されました。今年12月には日本政府が「東京栄養サミット2021」を開催する予定であり、栄養への注目が国際的に高まっていく中で、栄養改善のための手洗いなどの衛生行動が果たす役割について考えていく必要があります。

外務省国際協力局国際保健政策室から冒頭挨拶があり、栄養改善、水衛生に取り組む UNICEF (Hand Hygiene for All グローバルイニシアティブ)、Water Aid Bangladesh、Save the Children Japan、JICA がパネリストとして登壇しました。栄養改善及び水・衛生についてディスカッションし、以下のような点がポイントとして挙げられました。

- 栄養改善について考えるとき、水・衛生改善がフォーカスされにくいですが、もっと前面に出てくるべき、そのためには、水・衛生と栄養のつながりを示すエビデンスが必要である。
- 手洗いを習慣化するためには、分野を超えて繰り返し啓発を行う必要がある。
- 栄養と手指衛生には、社会的要因も含め様々な要素が関連しているため、セクター横断で取り組んでいく必要がある。
- 手洗いを継続して行うため、環境、コミュニケーション、行動変容、安全な水へのアクセス、水インフラは不可欠である。これらを改善していくためには、プライベートセクターを巻き込んでいくことも重要。
- 東京栄養サミットでは、水・衛生分野が栄養改善の要素であることをアピールし、今後具体的にどういった取組みを行なうのか、資金や政府レベルにおいてどのように連携していくかなどについてのコミットメントが求められる。

【参考情報】

Hand Hygiene for All Global Results Framework: <https://globalhandwashing.org/resources/hand-hygiene-for-all-results-framework/> and Call to Action: <https://www.unicef.org/reports/hand-hygiene-for-all-2020>

The studies on WASH and Nutrition: [https://www.thelancet.com/journals/langlo/article/PIIS2214-109X\(19\)30268-2/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/langlo/article/PIIS2214-109X(19)30268-2/fulltext)

Position paper (published by UNICEF and WHO): https://www.who.int/water_sanitation_health/news-events/who-unicef-position-paper-on-wash-and-nutrition-studies-20191125.pdf?ua=1

WASH and nutrition: why and how to integrate (WaterAid) <https://washmatters.wateraid.org/publications/wash-and-nutrition-why-and-how-to-integrate>
報告書「栄養の危機」(Save the Children Japan) <https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/3443/1613967813620.pdf>

手洗い運動開始から約6か月経過した2021年3月末までに、JICA事業において48か国、10の本部署、8の国内機関で200件の手洗いに関する活動報告がありました。「正しい手洗い漫画」(井上きみどりさん)の各国現地語への翻訳も28言語となり、ポスター掲示だけでなくハンカチに印刷して配布するなどの活動も行われています。翻訳版は随時 [HP](#) に掲載しています！さらに手洗いを定着させていくために、連携して活動を進めていきましょう！

本ニュースレターに掲載・共有したい記事・写真・情報等を随時募集しています！

①配信/配信停止の希望、②記事掲載の希望、③本メールマガジンの表示不具合などのほか、ご不明な点やご要望、ご感想がございましたら、下記の編集・配信担当支援スタッフまでご連絡ください。



地球環境部 JICA 健康と命のための手洗い運動事務局

Web サイト <https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/handwashing/index.html>

Handwashing@jica.go.jp

